

令和6年度 第1回 横浜市美術資料収集審査委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年11月22日（金）午後3時～午後4時55分
- 2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム
- 3 出席者 加藤弘子 委員長、勝山滋 委員、関次和子 委員、長門佐季 委員、光田由里 委員、南雄介 委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事内容

議題	令和6年度収集候補作品の審査
決定事項 議事	<p>1 定足数の確認 委員数6名のうち6名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 本委員会の公開・非公開について (審議結果) 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき、作品説明と質疑については公開とし、審査報告書作成については非公開とした。</p> <p>3 収集候補作品の審査 収集候補作品204点（購入3点、寄贈200点、寄託1点）について、横浜美術館指定管理者が概要を説明した後、検分審査を行った。 審議の結果、全会一致で上記204点について、収集が妥当との結論が出た。 議事については以下のとおり。</p> <p>4 議題：令和6年度収集候補作品の審査 ※作品の収集形態及び作品番号については、【収集形態—番号】の形で示す。</p> <p>【購入001～002】アネタ・グシェコフスカ『ママ #21』ほか (光田委員) ・「第8回横浜トリエンナーレ」の出品作ということで、エキシビション・コピー（展示用プリント）だとすると廃棄となることが多いが、今回はどうか。 (横浜美術館) ・作家はプリントには立ち会えなかったものの、厳密に作家の指示に従ってプリントしており、エキシビション・コピーをエディションのひとつにカウントして購入候補作品として扱う方針となった。 (光田委員) ・購入候補作品のエディション番号はどうなっているか。 (横浜美術館) ・『ママ #21』は2／5、『ママ #27』は3／5で、購入可能なエディションのうち、若い番号を選んだ。</p> <p>【購入003】ジュン・グエン＝ハツシバ『呼吸は自由 12,756.3：日本、希望と再生、1,789 km』</p>

(関次委員)

- ・映像は何分あるのか。

(横浜美術館)

- ・メインのプロジェクション映像が約7分、作家が仙台で走っているモニター上映用の映像が約10分となっている。

【寄贈004】松山智一『ブラック毛沢東、黄色ヨーゼフ・ボイス』

(南委員)

- ・横浜美術館のコレクションの中でどのように活用するのか。

(横浜美術館)

- ・本作は作家の大型の代表作であり、横浜美術館のコレクションに不足している2010年代以降の作品として、広く活用していきたい。

【寄贈005～016、046～073、075～080】富山妙子『廃墟』ほか

(光田委員)

- ・エディション数はどの程度あるのか。

(横浜美術館)

- ・作品によってエディション数は異なるが、10～30がほとんど。

(関次委員)

- ・015番の未完成の作品は、縦位置で見せる作品なのか。

(横浜美術館)

- ・一度、完成作品として発表された際は、縦位置となっていたが、別の作品を上描きしはじめた時点では、横位置を意図したと推測される。ただ、作者が縦位置か横位置かを明確にしないまま未完の絶筆となっており、過去に一度完成をみたときにちなんだ縦位置としている。

【寄贈017～045、084～085】海老塚耕一『水・叙事Ⅲ』ほか

(加藤委員)

- ・立体作品『静止した水一旅の空から』について、当初のコンセプトはどのようなものか。

(横浜美術館)

- ・作品の足を水中に沈め、鉄板だけが水の上に浮いているように見せるものだった。その後、足の加工が変更されて、長らく作家アトリエの庭に設置されていたものである。海老塚氏の立体作品は基本的にサイト・スペシフィックなものであり、1990年代までの立体作品はほとんど収蔵可能な状態で残っていないので、本作は貴重である。

(加藤委員)

- ・立体作品について、インストラクションは付いているのか。

(横浜美術館)

- ・本作のオリジナル図面はすでに多摩美術大学美術館に収蔵されているが、当館ではそのコピーの写真を作家から提供してもらっているので、当面はそれをインストラクションとして活用することが可能。作家にあらためて当館用の図面兼インストラクションを作成してもらうことも今後応相談という状況である。

(光田委員)

・作家の出品歴はどのようになっているか。

(横浜美術館)

・近年では、教授として在籍していた多摩美術大学で2022年に展覧会が開かれている。2019年には世田谷美術館で版画作品が紹介されている。それ以外では、画廊での個展が多い。

【寄贈081～083、086、185】和田守弘『《表基No. VII－自然に於ける黙示録》のための構想図(1)』ほか

(関次委員)

・横浜美術館では既収作家か。

(横浜美術館)

・横浜ゆかりの作家だが、未収だった。

(光田委員)

・081番、082番の作品は、横浜美術館で選んで収蔵することとしたのか。

(横浜美術館)

・そのとおり。これらは1979年に横浜市民ギャラリーで開催された「今日の作家'79展」のため制作された作品の構想図であり、インスタレーション自体は現存していないものの、作品の全体像が分かるものとして、他にも候補がある中で選んだ。

【寄贈087】プリックリー・ペーパー（刺紙）『揺れ動く草の群れ』

(長門委員)

・作品が展示された横浜トリエンナーレでは、どのような展示方法を取ったのか。

(横浜美術館)

・立体は床に置き、ZINEについては天井から吊るす形としていた。

(加藤委員)

・作品には接着剤などを使用しているのか。

(横浜美術館)

・すべて接着剤を使わず、組み立てる形となる。保管時にはフラットにできる。

【寄贈087】志賀理江子『霧の中の対話：火 一宮城県牡鹿半島山中にて、食獵師の小野寺望さんが話したこと』

(関次委員)

・写真の上のテキストは手書きか。

(横浜美術館)

・手書きである。当初インスタントレタリングも検討した。コスト面の問題もあったが、表現として手書きが最も効果的だと作家が最終判断した。

(光田委員)

・展示方法はどのように考えているか。

(横浜美術館)

・横浜トリエンナーレではガンタッカーで直接作品を壁に固定する方法をとっていたが、収蔵品として永年保管していくことを考えて、ハトメを取り付ける方法等を作家と協議している。

【寄贈101～184】大谷幸夫/大谷研究室（旧設計連合）『「こどもの国児童館」関連図面擁壁平面図』ほか

（光田委員）

- ・写真は作品ではないのか。

（横浜美術館）

- ・図面は建築分野の作品として扱っているが、写真については作品外資料となる。

【寄託001】岡崎乾二郎『聖ベルナルドゥスは最小限の睡眠時間しかとらなかった。眠っている時間ほど無駄はない。眠りはひとつの死である（けれど神からすれば死人こそ眠っているだけかも知れない）。大きな軒。だらしのない格好。ただ肉が眠っているだけである。だから食欲や悦びから食べることもなかった。彼は水ほどおいしいものはない、水を飲むと喉がさわやかになると言った。森や野に出て瞑想する。森のミズナラの木。ブナの木が彼の先生であった（ブナの葉は、また彼の唯一の食料だった）。（黄金伝説より「聖ベルナルドゥス」）』ほか

（関次委員）

- ・将来的に、寄贈に切り替わる可能性はあるのか。

（横浜美術館）

- ・将来的な寄贈について、まだ具体的な話は出ていない。横浜美術館で展示活用していく中で、寄贈につながる機会をうかがっていききたい。

【その他】

（加藤委員）

- ・収蔵庫の収蔵状況はどうか。

（横浜美術館）

- ・3年前（横浜美術館の大規模改修前）は収蔵庫が満杯の状態だったが、改修後は収蔵庫の面積が増え、従来のようにはならないと考えている。ただ、改修中にも2,000点ほど収蔵作品が増えており、思っていたよりも余裕がない。近い将来、また収蔵庫が満杯になって、どうするか検討せざるを得ない状況が生じてくることが予想される。

（加藤委員）

- ・他の多くの美術館でも似たような状況となっている。民間倉庫を借り上げていくことも今後、視野に入れる必要が出てくる。

（関次委員）

- ・東京都立の施設ではすでに収蔵庫に収まりきらず、民間倉庫を何軒も借りている。

（加藤委員）

- ・収蔵作品は美術館の格付けに直結するものであり、既存の蔵置スペースが限られるからといって安易に新収蔵を止めるべきではない。蔵置スペースの確保と収集の兼ね合いは、今後の検討課題ではないか。

（勝山委員）

- ・映像作品はどのような形で収蔵しているのか。

（横浜美術館）

- ・昨今はデジタルデータをHDDやスマートメディアに収めたかたちで収蔵している。その際、なるべく圧縮率が低いものを、作家と相談して収蔵している。

	議事は以上
--	-------